



第35号
平成24年10月
編集・発行
日本杖道会

日本剣法の沿革

日本武道の始まり

日本の武道は神代かみよの昔、武御雷命たけみかづちのみことと、経津主命ふつねしのみことの、この二柱ふたはしらの神かみによってひろめられたと、いい伝えられております。武御雷命たけみかづちのみことは常陸ひたち(茨城県)の鹿島神宮かしまじんぐうに、経津主命ふつねしのみことは下總しもふさ(千葉県)の香取神宮かとりじんぐうに共に武道の祖神そじんとして、祀まつられております。このような由来ゆらいからして、鹿島香取の兩地かしま かとりには、古くから武藝が盛んに行われ、世に「鹿島の太刀」と稱せられたのが、別れて関東七流かんとうちりゅうとなりました。

これが日本で、もつとも古い剣法の流派で、これをもつとして編出あみだされたのが、飯篠長威齋家直いひささちやうみさいいへなおを流祖とする「天真正傳神道流てんしんしょうでんしんどうりゅう」ということになっていきます。長威齋ちやうみさいは下總國香取郡飯篠村しもふさのくにかとりちほりいひささむらの生まれで、幼い頃から剣を好み、香取明神かとりみょうじんに祈誓きせいをこめて、剣道の極意を授けていた。きたいと懇願こんがんしました。尚、当時の武士は剣ばかりでなく、たいてい槍をも一緒に修行しゆぎやうしたと伝えられている。

長威齋ちやうみさいは室町時代の末期、足利氏の威勢いせいがおとろえて、戦国時代になろうとする頃の人であったから、これを聞傳ききつたえて、諸國から集まる門人

が多くなり、なかでも諸岡一羽齋もろおかいつばさい、塚原土佐守つかはらとさのかみ、井鳥巨雲為信等ゐどりきようたためのぶは、皆長威齋ちやうみさいの高弟で、中でもつとも師風を傳えたのは、松本備前守政信まつもとびぜんのかみまさのぶであったと言われている。

有馬大和守乾信ありままとのかみけんしんは、この備前守の高弟で、また卜傳流ぼくでんりゅうの祖塚原卜傳つかはらぼくでんは、土佐守の養子となつてゐる。こうして関東の剣法ははじまつてきた。

室町時代には足利氏の根據地として、天下の武士を集めた剣法に「京八流きやうはちりゅう」、「法眼流ほふげんりゅう」があつて、この法眼流をもつとして「吉岡流よしおかりゅう」の祖吉岡憲法きんぽうというものがあつた。

また九州には、日向の鶴戸権現ひうが うどこんげんの岩屋いわやに參籠さんろうし、やはり靈夢れいむを得て、一派を編出した「愛洲陰流あいすかげりゅう」の元祖愛洲惟孝あいすあいやすのみかたというのが現れ、有名な上野箕輪うげみのわの士し、「神陰流しんかげりゅう」の祖上泉伊勢守秀綱そかみいづみいせのかみひでつなは、その門人であつたと言ふ。

西國さいごくに生まれて東國とうこくに移つたこの流派が、後年に本全國にわたつて、もつともあまねく行われたのも、ふしぎの因縁いんえんといふべきであります。

頼朝よりとも以來幕府の地として、部門ぶもんにもつとも縁故えんこの深い鎌倉からは、壽じゆ神寺ふくじの僧慈音そうじおんという、法衣ほういの兵學者へいがくしやが現れ、中條兵庫助長秀ちゆうでうひやうこのすけながひでを祖とする「中條流ちゆうでうりゅう」をはじめ、「富田流とみたりゅう」、「長谷川流はせがわりゅう」、「一刀流いっとうりゅう」(著者伝継中の「一心流鎖鎌術しんしゆりゅう」の始祖は前述の僧慈音であります)、諸派は、いづれもその流れを汲むものである。

これ等が戦國時代の代表的流派で、また後世まで榮えた流派であつた。こうして神代の昔から起つた武道は、組織的に發達したのは、この戦國時代からと言われている。

全日本剣道連盟創立60周年記念 全日本剣道演武大会

京都武徳殿

毎年恒例となっております、全日本剣道演武大会が京都武徳殿にて開催され、各師範が演武を披露されました。

演武当日、5月2日はあいにくの天気となりましたが、多数の参加者と見学者で会場はごった返しておりました。そのような中、各種武道として当会より多数の演武者が参加致



しました。

神之田常盛、大里耕平両師範は奥業の先勝をはじめとした神道夢想流杖術を皮切りに、併傳武術である一心流鎖鎌術を披露されました。

また六段錬士となりました矢口真知子、杉本順子両選手は初めて京都での杖道演武となり、本人たちからもよい記念であり、嬉しいかぎりであったとのコメントがありました。

東京都剣道連盟主催の杖道5段以下審査会が新宿コスミックS/Cにておこなわれました。

本部道場蔵脩館杖道より以下の合格者がありました。おめでとうございます。

三段 砂川 邦雄 笠原 正大

市川 裕之

二段 秋山 重雄

一級 西田 祐子 木村 麻紀

東京都杖道大会

東京都杖道祭

7月8日(日)巣鴨学園ギムナシオンにおいて第24回東京都杖道大会が開催された。

参加選手約400名と多く、各試合会場とも熱戦が繰り広げられた。当会より六段の部で、松本保典選手、矢口真知子選手組が優勝を収めた。

午後より第13回東京都杖道祭が行われ、各種武道の演武が披露された。日頃鍛錬された技の数々を拝見でき、大会を一層盛り上げた。

記 西澤 真人



